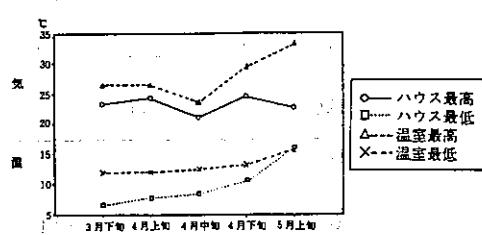
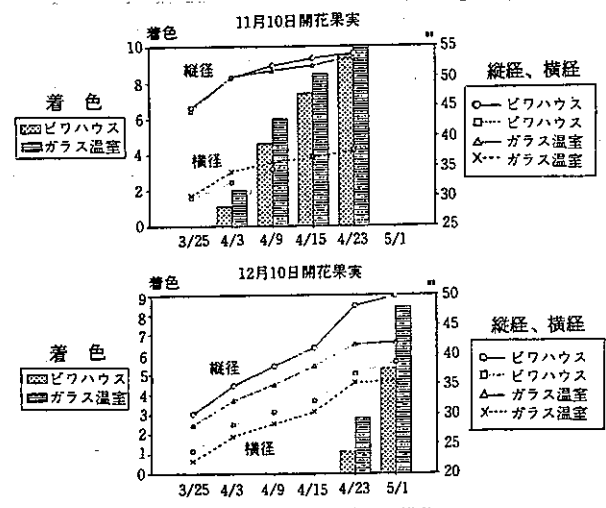


課題名	33. びわの肥大盛期の気温と肥大、成熟について
成果の要約	肥大盛期に気温が高いと開花日の遅い果実は小さいままで着色した。
成績概要	<p>茂木種のはち植え樹を用い、花房内の開花日をそろえた果実を、肥大盛期に気温の異なる温室に置き、果実の肥大、着色の推移を調査した。</p> <p>(1) 気温の高いガラス温室の果実が早く成熟する傾向がみられた。特に、12月10日開花の果実では気温の高い方が着色が早かった。</p> <p>(2) 11月10日開花の果実では、果実の肥大に大きな違いはみられなかった。12月10日開花の果実では気温が低いびわハウスの果実は遅くまで肥大が続いたが、気温の高いガラス温室の果実は肥大が鈍り、小さいままで着色した。</p> <div style="text-align: center;">  <p>第1図 気温の推移</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>第2図 果実の肥大、着色の推移</p> </div> <p style="text-align: right;">(昭60長崎果試)</p>
普及上の留意点	開花の遅れた年の肥大盛期に高温管理を行うと、果実肥大をわるくすることが考えられる。